

4. 北海道帯広市

1. 地域概要

対象地域	帯広市を中心とする北海道十勝地域			
申請主体	帯広市			
計画名	とち帯広空港への国際定期便就航に伴うオーバーツーリズム対策			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	-	-	-
	- 国内(入込客数)	10,265	11,446	11,595
	- 訪日外国人旅行者(延べ宿泊者数)	163	145	185
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> 北海道・十勝地域は農業が盛んで、小麦や大豆、じゃがいも、ビートなど、多彩な農産物が栽培されている。また酪農も非常に盛んで、地元の食材を活かしたソウルフード、スイーツに定評がある。 十勝の気候は、夏は湿度が低いため過ごしやすく、冬は晴天の日が多い。四季折々の景色と美しい景観が観光客を惹きつけ、季節や時間を問わず楽しめる魅力がある。 十勝の中核都市である帯広市の南東部に位置する「とち帯広空港」において、韓国との国際定期便が令和7年5月より就航しており、今後訪日外国人旅行者の増加が見込まれている。 			
協議体制	協議の場			
	<p>帯広市が参画する、とち帯広観光誘致空港利用推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査による地域住民の声を共有し、構成員間で課題認識を共有。 訪日外国人旅行者増加に対応するための今後の方向性について意見交換を行い、持続可能な観光振興を見据えた事業展開を検討。 			
	参加者			
	行政機関等	事業者		
	<ul style="list-style-type: none"> 帯広市 音更町 	<ul style="list-style-type: none"> 十勝バス株式会社 北海道拓殖バス株式会社 		
	住民関係者			
	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民 	<ul style="list-style-type: none"> (一社)帯広観光コンベンション協会 (一社)音更町十勝川温泉観光協会 		

エリアマップ



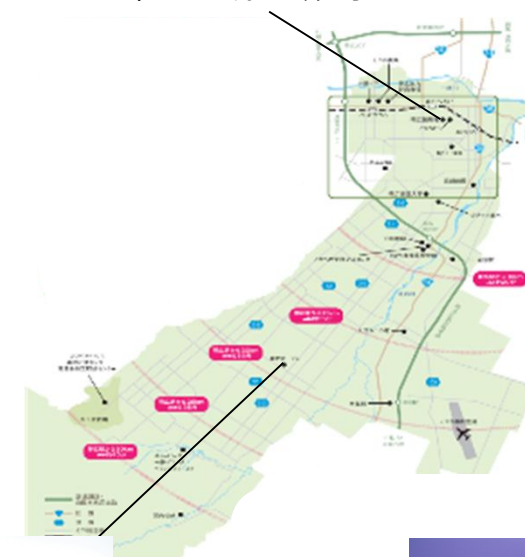
・スイーツ
農業王国十勝では、小豆・小麦・砂糖・生クリームなど、スイーツにおける原材料の多くが揃う



・ばんえい競馬
体重1トンを超える馬が、最大1トンにもなる鉄ソリを曳く、世界で唯一のばんえい競馬



・モール温泉
北海道遺産にも登録されている植物性温泉で、美人の湯と言われている



・ガーデン(紫竹ガーデン)
十勝ならではの気候を生かした個性・魅力に溢れた観光庭園



・日高山脈襟裳十勝国立公園
陸域では日本最大の広さを誇る国立公園

2. 課題

主な現状・問題点		影響を受けている主な対象
1. 国際定期便就航時の二次交通	<ul style="list-style-type: none"> 国際定期便就航の際に、既存の空港連絡バスの運行のみでは、座席数の不足が見込まれることからオーバーツーリズムが発生し、訪日外国人旅行者の満足度低下や、地域住民の移動手段への影響に伴う利便性の低下が想定される。 帯広エリアの主要観光地である「十勝川温泉」までの移動手段が、帯広駅からの路線バスのみであるため、同エリアへのアクセスに課題がある。 	訪日外国人旅行者・地域住民
2. 訪日外国人旅行者向け受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 空港を始め、中心市街地を中心としたエリアにおける多言語対応等の整備がされておらず、訪日外国人旅行者の受入環境整備が必要である。 	訪日外国人旅行者

1 国際定期便就航時の二次交通

出発線 FOR TOKACHI OBIHIRO AIRPORT 帯広市内 ⇨ とちか帯広空港 行き Obihiro city ⇨ To Tokachi Obihiro Airport								
transit stops 通過停留所							fare 運賃	
Tokachi Obihiro Airport とちか帯広空港	8:08	9:03	12:48	13:03	14:23	18:18	19:03	*****
航空便接続 備考(航空/バス共通)								
Flight number 便名	ADO62 ANA4762	JAL570	JAL572	ADO66 ANA4766	JAL574	ADO68 ANA4768	JAL576	
Tokachi Obihiro とちか帯広								
Departure Time 出発時刻	9:00	10:00	13:40	13:55	15:15	19:10	19:55	
Destinations 目的地	Tokyo 東京	Tokyo 東京	Tokyo 東京	Tokyo 東京	Tokyo 東京	Tokyo 東京	Tokyo 東京	
Arrival Times 到着時刻	10:45	11:45	15:25	15:40	17:00	20:55	21:35	

JAL:日本航空 ADO:エアドゥ ANA:全日空

とちか帯広空港初の国際定期便であり、国際定期便に対応した空港連絡バスが運行していないため、帯広市内等へのアクセスに課題がある

2 訪日外国人旅行者向け受入環境整備



令和6年度の国際チャーター便就航時には、多言語対応等の整備が不十分であったため、訪日外国人旅行者における二次交通に関する案内に課題が残った

主な背景・要因

1. とちぎ帯広空港における国際定期便就航による訪日外国人旅行者増加

- ・ 令和6年度の国際チャーター便就航の際に、運行ダイヤに合わせて空港連絡バスを運行。バス乗り場を探す訪日外国人旅行者の姿や、空港内における混雑による課題が残ったほか、当該運行期間において大雪による空港連絡バスの急な運休があった際に、訪日外国人旅行者に向けた情報発信の脆弱性を露呈した。
- ・ 令和6年度の国際チャーター便運航の際に、十勝川温泉エリアに向かう訪日外国人旅行者の荷物（ゴルフバッグ等）が多く、路線バス内が窮屈となり、地域住民の移動に支障が生じた。
- ・ 令和7年5月21日に就航したとちぎ帯広空港初の国際定期便によって、今後訪日外国人旅行者の増加が見込まれることから、オーバーツーリズムの未然防止に向けた対策が急務となっている。



国際定期便就航に関するポスター



空港内の混雑の様子

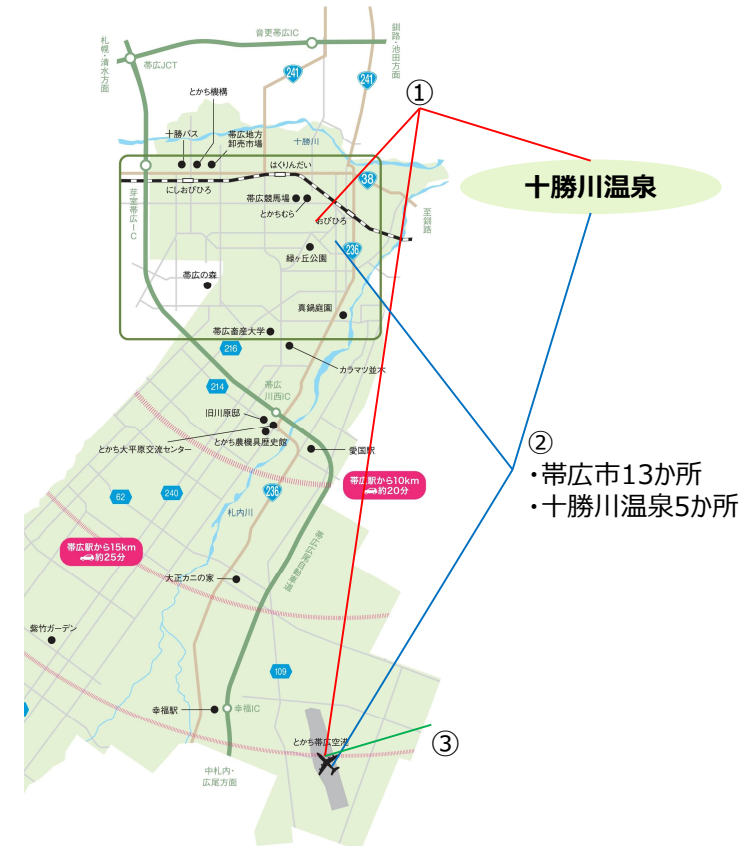
4. 対策の概要

目指す姿	受入環境の整備、増強により来勝者の満足度や利便性を高め、 十勝が多く旅行者に目的地として選ばれと共に、地域が一体となって観光客を快く受入られる地域
KGI	(指標) とちか帯広空港利用訪日客の帯広市・音更町における移動に係る満足度 現状値：数値なし 目標値：50.0% (令和11年度)

- とちか帯広空港への韓国定期便の就航を契機に訪日外国人旅行者の増加が見込まれるが、受入環境が整備されておらず、観光客のみならず地域住民へオーバーツーリズムによる影響が生じる可能性が高い。
- 音更町や十勝川温泉活性化協議会との協議を踏まえ、十勝川温泉までの空港連絡バスの運行、多言語案内板の設置、人流データ調査の・分析を実施する。

■ 補助事業の実施概要

受入環境の整備・増強	
① とちか帯広空港から十勝川温泉への連絡バス運行	
【背景・課題】	<ul style="list-style-type: none"> 国際定期便就航の際に、既存の空港連絡バスの運行のみでは、座席数の不足が見込まれることからオーバーツーリズムが発生し、訪日外国人旅行者の満足度低下や、地域住民の移動手段への影響に伴う利便性の低下が想定される
【事業内容】	<ul style="list-style-type: none"> 従来の東京線ダイヤ分の空港連絡バスに加え、国際定期便に合わせた空港連絡バスを運行 とちか帯広空港利用者の中でも、主要目的地の1つである「十勝川温泉」まで路線を延長 空港連絡バス内における韓国語対応（アナウンス及び掲示）を実施
② 多言語案内板（デジタルサイネージ）設置	
【背景・課題】	<ul style="list-style-type: none"> 空港を始め、中心市街地を中心としたエリアにおける多言語対応等の整備がされておらず、訪日外国人旅行者の受入環境整備が必要
【事業内容】	<ul style="list-style-type: none"> 多言語案内板（デジタルサイネージ）を空港内及び空港連絡バス停留所（帯広市街地ホテル等）に計18台設置 多言語案内板（デジタルサイネージ）の設置により訪日外国人旅行者の受入態勢を整備し、利便性の向上とともに、二次交通等に関する情報提供を通じて交通結節点における人流の滞留防止を図る



需要の分散・平準化	
③ とちか帯広空港利用者（国際定期便）の人流データ調査・分析	
【背景・課題】	<ul style="list-style-type: none"> 今後訪日外国人旅行者の増加が見込まれることから、オーバーツーリズムの未然防止に向けた対策が急務となっている
【事業内容】	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の位置情報をもとに、どの国・地域から来訪し、入出国の間どのエリアを訪問したのか等の動態統計を収集する人流データサービスを活用 とちか帯広空港利用者（国際定期便）の行動パターンを分析し、二次交通の混雑緩和及び今後の受入環境整備等、観光振興施策に活用

【本地域における取組マップ】

KGI：とちち帯広空港利用訪日客の帯広市・音更町における

移動に係る満足度

- 測定手法：北海道運輸局による訪日客に対するアンケート調査
- 現状値：数値なし
- 目標値：50.0%（令和11年度）

多言語案内板（デジタルサイネージ）設置

KPI：多言語案内板が空港から/への移動にあたって「役に立った」と回答した訪日客の割合

令和7年度 60.0%
令和11年度 80.0%

- 空港を始め、中心市街地を中心としたエリアにおける多言語対応等の整備がされておらず、訪日外国人旅行者の受入環境が整っていない。

- 受入環境の整備・強化
- 需要の分散・平準化
- 地域住民の生活への影響緩和

とちち帯広空港利用者（国際定期便）
の人流データ調査・分析

- 国際定期便就航時、帯広駅からの路線バスに、訪日外国人旅行者と地域住民が乗車することになるため訪日外国人旅行者の受入に慣れていない地域住民から苦情等が発生する。
- 地域住民の交通手段に影響がでるため、地域住民より不満が生じる。

とちち帯広空港から十勝川温泉への連絡バス
運行

KPI：定期便就航期間中の連絡バスの乗車人数

令和7年度 4,160件
令和11年度 8,320件

- 空港からの二次交通は空港連絡バス、タクシー、レンタカーに限定されており、国際定期便就航の際は空港連絡バスの運行本数が不足している。
- 帯広市街地等目的地への移動がスムーズにできないことにより空港内が混雑するなど、来訪満足度の低下につながる。

令和7年度KPI：定期便就航期間中/後の訪日客の動態調査レポートの作成完了

令和11年度KPI：空港内のオペレーション改善や観光施策の検討に活用された件数

令和7年度 作成完了
令和11年度 3件/年



受入環境の整備・増強

補助事業①	とちぎ帯広空港から十勝川温泉への連絡バス運行		
事業目的	とちぎ帯広空港利用者の利便性向上		
実施主体	帯広市	実施期間	令和7年9月～令和8年1月

【背景・課題】

- 空港からの二次交通は空港連絡バス、タクシー、レンタカーに限定されており、国際定期便就航時には、空港連絡バスの運行本数不足が課題である。
- オーバーツーリズムの発生に伴い、地域住民の交通手段に影響が出るため、国際定期便就航時における地域住民の利便性低下が懸念される。
- とちぎ帯広空港利用者の中でも、主要な目的地の1つである「十勝川温泉」について、帯広駅からの交通手段が路線バスのみのため、訪日外国人旅行者と地域住民が混在することとなるため、訪日外国人旅行者の受入に慣れていない地域住民から苦情等が発生する。

【事業内容】

- 空港を利用する訪日外国人旅行者の利便性向上を目的として、空港連絡バスの運行体制を強化する。
- これまで東京線の発着ダイヤに合わせて運行していた空港連絡バスに加え、国際定期便のダイヤにも対応した新たな便を運行することで、海外からの利用者に対するアクセスを大幅に向上させる。
- 空港利用者の主要な目的地の一つである「十勝川温泉」まで路線を延長し、空港と目的地を直接結ぶことで、国際定期便利用者の周遊拡大を図る。
- 増便は2社で対応し、十勝川温泉行きだけでなく、帯広市内ホテルへの運行を実施する。
- バス車内のアナウンスおよび案内掲示の韓国語対応を通じて、韓国人旅行客が安心して利用できる環境を整備する。
- 空港アクセスにかかる利便性向上を通じて、国際線利用者数の増加が見込まれるとともに、地域住民との移動の分離を図り、オーバーツーリズムの抑制につなげる。

【推進ポイント】

- 事業終了後における民間事業者による自走を想定し、実証運行を行う。



連絡バス

補助事業①

とちぎ帯広空港から十勝川温泉への連絡バス運行

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名

定期便就航期間中の連絡バスの乗車人数

令和7年度に掲げた目標値

- 4,160人

事業の成果/目標の検証結果

- 8,803人 (令和7年9月9日から令和8年1月31日)

成果の詳細

- 韓国定期便の就航に合わせて空港連絡バスを運行したことで、訪日外国人旅行者が空港から市街地・宿泊施設等へ円滑に移動できる二次交通環境を整備することができた。特に、レンタカーを利用しない訪日外国人旅行者に対し、公共交通による移動手段を提供できたことで、訪日外国人旅行者受入態勢の強化につながった。
- 運行においては、既存の東京線接続便と比較しても多くの利用がみられ、韓国定期便利用者における空港連絡バスの需要があることを確認することができた。就航初期において一定の利用実績を確保できた点は、本施策の有効性を示す結果である。
- 韓国定期便就航に合わせて空港連絡バスを運行したことにより、航空会社や関係機関、利用者に対し、地域として受入環境が整っていることを示すことができ、路線定着に向けた初動対応として一定の効果があつた。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 事前周知の不足

- 十勝川温泉への延線分については、想定していたほど乗車数が伸びなかった。
- 事前周知の不足により利用につながらなかった可能性があるため、今後は宿泊施設や旅行商品と連動した周知方法等の検討が必要である。

2 バスの定員超過

- 一部の便においては、乗車数が定員を超過する状況が生じた。

令和8年度以降の方針

1 周知方法の検討

- 事業期間 (令和7年9月19日～令和8年1月31日) を終え、バス事業者による自主運行を行っている。
- 同事業者のみならず、帯広市及び音更町等により当該空港連絡バスの更なる周知を検討する。

2 体制の検討

- 韓国定期便の利用状況を踏まえ、繁忙時間帯や特定便における輸送体制の確保について、バス会社及び空港運営者と連携を図りながら検討する必要がある。

受入環境の整備・増強

補助事業②	多言語案内板（デジタルサイネージ）設置		
事業目的	とちぎ帯広空港を利用する訪日外国人旅行者の利便性向上		
実施主体	帯広市	実施期間	令和7年9月～令和8年2月

【背景・課題】

- 韓国定期便の就航による訪日外国人旅行者の急増を見込んでいるが、空港を含む中心市街地エリアにおいて、多言語対応可能な人材の配置や多言語表記の看板の設置等、訪日外国人旅行者の受入環境が整っておらず、それらのエリアにおける訪日外国人旅行者の滞留が予想され、地域住民における移動に悪影響を及ぼす可能性がある。
- この対策として、訪日外国人旅行者の受入態勢を整え、利便性の向上を図るとともに、交通等に関する情報収集に時間を要することによる人の滞留等を防ぐ必要がある。

【事業内容】

- 訪日外国人旅行者に対し、円滑で快適な移動環境を提供することを目的として、多言語対応型のデジタルサイネージを整備する。
- 設置箇所は、とちぎ帯広空港のほか、空港連絡バスの停留所となる駅、ホテルなど計18か所とする。
- 空港到着後から市内滞在中まで一貫した情報提供を実現し、訪日外国人旅行者の移動や観光行動を支援する。
- 掲載内容は、空港連絡バスの運行時刻や運行状況、観光情報等とする。
- 表示言語は、日本語・英語・韓国語・中国語（繁体字・簡体字）の5言語とし、利用者の多様なニーズに対応する。
- 本取組により、訪日外国人旅行者が必要な情報を迅速に得られる環境を整備し、滞留や混雑の緩和を図り、オーバーツーリズムの抑制につなげる。

【推進ポイント】

- 多言語案内板（デジタルサイネージ）の運用に際しては、設置箇所における土地所有者との連携を図る必要がある。



多言語案内板



多言語案内板画面

補助事業②

多言語案内板（デジタルサイネージ）設置

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名

多言語案内板が空港から/への移動にあたって「役に立った」と答えた訪日客の割合

令和7年度に掲げた目標値

- 60%

事業の成果/目標の検証結果

- 85%（数値取得期間：令和8年1月23日、26日、27日、28日、30日）（サンプル数：100件）

成果の詳細

- 空港等に多言語案内板（デジタルサイネージ）を設置し、5か国語（日本語・英語・韓国語・中国語（簡体字・繁体字））で空港連絡バスの運行時刻や運行状況、観光情報等の放映をできたことで、訪日外国人旅行者に対し、多言語による情報提供環境を構築することができた。これにより、訪日外国人旅行者到着後の移動や観光行動に関する不安の軽減につながった。
- 多言語案内板（デジタルサイネージ）を活用することで、静的な掲示物と比べて視認性が高く、利用者の目に留まりやすい形で情報発信を行うことができた。また、画像やアイコンを用いた放映コンテンツにより、直感的に理解しやすい案内を提供することができた。
- 韓国定期便の就航に併せて、多言語案内体制を整備したことにより、今後の訪日外国人旅行者誘客に向けた初動施策として一定の効果があつた。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 更新作業にかかるリソース

- 放映内容はクラウドによる一括管理ではなく、各機器を直接操作して更新を行う必要があることから、更新作業に一定の手間及び時間を要している。

2 効果検証不十分

- 多言語案内板の閲覧状況や利用者の反応を定量的に把握することが難しく、実際の活用状況を十分に検証できていない。

3 設置場所の非最適

- 設置場所によっては、訪日外国人旅行者の動線と合致していない可能性があり、十分な情報提供をできていないケースも想定される。

令和8年度以降の方針

1 運営体制および更新方法の検討

- 効率的かつ迅速な情報更新が行えるよう、運用体制や更新方法の検討が必要である。

2 効果検証手法の検討

- 表示内容や設置場所の検討に活かすため、利用実態を把握する手法の検討が必要である。

3 設置場所および表示内容の検討

- 利用者の動線や滞留状況を踏まえ、より効果的な設置場所や表示方法について検討を行う必要がある。
- 空港運営者等と協議を行い、訪日外国人旅行者観光客の行動の一助となるよう、二次交通情報等の充実を図る。

需要の分散・平準化

補助事業③	とちち帯広空港利用者（国際定期便）の人流データ調査・分析		
事業目的	とちち帯広空港利用者（国際定期便）の人流データ調査・分析		
実施主体	帯広市	実施期間	令和7年9月～令和8年2月
<p>【背景・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国直行便の就航による訪日外国人旅行者の急増を見込んでおり、訪日外国人旅行者の滞留や、特定の観光地への人の集中等が考えられるが、帯広市では、これらの抑制・解消に向けた検討に必要な観光客の動向調査をこれまで実施していない。 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際定期便の就航に伴い増加が見込まれる訪日外国人旅行者の動向を的確に把握し、今後の受入環境整備や交通対策、観光施策の検討に資する基礎データを収集する。 データ取得手法としては、携帯電話の基地局情報をもとに匿名化・統計化された位置情報データを活用し、とちち帯広空港を利用した訪日外国人旅行者（特に国際定期便利用者）の滞在傾向を分析する。 分析内容としては、旅行客数、宿泊客数、平均訪問滞在日数のほか、入国・出国空港などを把握することで、観光客の行動パターンを可視化して、帯広市における混雑時期を明確にする。 得られたデータを既存の観光統計や交通実績と組み合わせて分析することで、季節・イベントごとの来訪傾向や、訪日外国人旅行者の回遊性・滞在特性を定量的に把握する。これにより、今後の観光地整備、効果的なプロモーション戦略の立案などへの活用、また、二次交通の最適な運行計画等、受入態勢の改善方策検討を可能とし、オーバーツーリズムの抑制につなげる。 <p>【推進ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者にアンケート回答等の負担を求めない手法を採用することで、協力率に左右されない客観的かつ広域的な人流データの取得を実現する。 			

補助事業③

とちぎ帯広空港利用者（国際定期便）の人流データ調査・分析

令和7年度事業の目標（KPI）

指標名 定期便就航期間中/後の訪日客の動態調査レポート作成完了

令和7年度に掲げた目標値

- ・ レポート作成完了

事業の成果/目標の検証結果

- ・ レポート作成完了（事業終了時）

成果の詳細

- ・ 帯広市における訪日外国人旅行者を対象に人流データの調査・分析を行ったことで、旅行客数、宿泊客数、平均訪問滞在日数のほか、入国・出国空港など、これまで把握ができていなかった行動実態を可視化することができた。
- ・ 韓国定期便就航による韓国人観光客は顕著に増加しており、十勝・帯広への誘客及びとちぎ帯広空港利用促進に大きな貢献が見られるほか、令和7年5月から8月にかけては宿泊施設の混雑が確認できるなど、これまで定性的な情報に頼ることが多かった訪日外国人旅行者の動向について、客観的なデータに基づく分析を行ったことで、今後の観光施策をより効果的に検討するためのデータを取得することができた。

令和7年度事業を踏まえた継続課題

調査サンプル数の不足

- ・ 韓国定期便の就航初期であったことから、調査対象となる利用者数が限定的であり、分析結果の汎用性には一定の制約があった。

令和8年度以降の方針

継続的なデータ収集

- ・ 継続的なデータ蓄積により、分析精度の向上を図る必要がある。